

資料 3

各専門部会等の活動報告

令和 6 年 (2024) 2 月 7 日

出雲市健康福祉部福祉推進課

令和3～5年度

つながる専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：玉木（かのん） 副部会長：福田啓（プレーゲ） メンバー：渡部・古家（ふあっと）、吉田（いんくるネット出雲）、今岡（平安堂） 福間（太陽の里）、富岡（Reve）、岸（うさぎケアプラン出雲）、 古割（出雲保健所）原田（大社高齢者あんしん支援センター：R3）、 武田（斐川高齢者あんしん支援センター）、 事務局：高山（R3）、原田（R4・5）（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	1. 介護保険とつながる：介護支援専門員と相談支援専門員がお互いに顔を合わせて相互理解を深め、連絡がとりやすく、同じ目的に向かって協働できる環境作りをする。 2. 地域とつながる：障がいのある人や相談支援専門員について、地域の方に理解を深めてもらえるように、コミュニティーセンターや民生委員、社会福祉協議会等に働きかけ、必要時に連携ができる体制をつくる。
活動状況	■介護保険とつながる ○介護支援専門員と相談支援専門員の共同研修の実施 ・事例検討会（R3） ・ワールドフェ（R4）33人参加 ・重層的支援体制整備事業に関する研修会（R5） 講師：出雲市社会福祉協議会 菖蒲氏 事例を通して地域のインフォーマルな支援とのつながり方を学んだ ■地域とつながる ○相談支援専門員や障がい福祉制度等の普及啓発、情報提供 ・ポスターの掲示・配布（R2作成） ・コミセン主催の行事で、普及啓発活動の実施（R4） ・在宅療養懇親会（R3）、大社地区民生委員児童委員協議会定例会（R4）で、障がい福祉制度や福祉の相談窓口、相談支援専門員の役割について情報提供した。
成果	①介護保険とつながる ・共同研修の実施や、サービス対照表を活用することで、それぞれの制度や視点の違いに対する理解につながり、顔の見える関係性を築くことができた。 ・ケースを通じて課題の共有ができた。 ②地域とつながる ・実際に地域で活動している方の話を聞き、社会資源の1つとして今後の支援の参考にすることができた。 ・地域資源を知っている人や場所、機関とつながることの大切さや、その方法を知ることができた。

課 題	①介護保険とつながる ・介護支援専門員と相談支援専門員との研修の継続の方法 ・障がい福祉サービスと介護保険サービスの対照表の更新 ②地域とつながる ・相談支援専門員の普及啓発ポスターの更新（令和２年度作成） ・相談支援専門員とコミセンや民生委員とのつながりの強化
------------	---

令和 3～5 年度 くらし専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：森谷（桑友） 副部会長：柳楽（ハートピア出雲） メンバー：宮本（桑友）、福代（CS いずも）、 足立・三原・江岡・石村（くまローズ） 事務局：木村・今井（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	【R3】 1. 資源情報一覧の充実を図る 2. ニーズと資源を結び付ける相談支援専門員のスキルの向上 【R4～R5】 3. 各相談支援専門員が所有する地域資源情報について定期的に共有 4. 地域課題を確認できた場合、サービス調整会議や運営会議へ働きかける
活動状況	【R3】 ■部会 9 回開催 ■資源情報一覧の充実に向けた意見交換、情報収集、発信（5～7 月） ■サービス調整会議準備（8～10 月） グループワーク進行の調整、モデル事例作成など ■次年度取り組みの検討（11 月～） 【R4～5】 ■部会 R4 7 回開催（一部オンライン開催） R5 5 回開催 それぞれ情報交換会、サービス調整会議の企画検討及び準備 ■地域資源に関する定期的な情報共有 ○情報交換会を開催（オンライン／会場・オンライン併用） ①R4 6/28 家の「外」の管理、自治会とのつながり 参加者：11 名 ② 8/22 ペットに関するあれこれ 参加者：9 名 ③ 10/25 新型コロナ悲喜こもごも 参加者：10 名 ④R5 6/22 ニーズと資源をつなげるための工夫 参加者：8 名 ⑤ 10/25 外国の方への支援について 参加者：11 名 ⑥ 11/16 高齢の当事者との関わりについて 参加者：6 名 ○サービス調整会議 ・架空の街をマップ化し、ニーズと地域資源の結び付けをロールプレイ ・障がい者の社会参加について「合理的配慮」の観点から深める ■資源情報一覧の更新

	意見交換会で得られた情報を地域資源情報一覧に追加 →各相談支援事業所、サービス提供事業所へ情報発信／他部会研修にて活用
成 果	・資源情報一覧の活用範囲の拡大、情報追加、様式の変更を行い、相談支援専門員等に活用してもらうことができた。 ・サービス調整会議を活用し、利用者のニーズと地域資源を結び付ける手立てを市内の相談支援専門員と共有した。 ・各相談支援専門員が所有する地域資源情報について R4～5 の間で計 6 回の情報交換会を実施できた
課題 次年度への方向性	上記内容を踏まえ、くらし専門部会としての取り組みは一定程度の成果を得られたと確認。部会編成に伴い、専門部会としての活動を終了する。

令和3～5年度

じりつ専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：渡部（ふあっと） 副部会長：勝部（そうゆう） ささえ愛サポート WG：長澤（美野園）、浅津、見戸（出雲サンホーム） 松村（ふたば園）、濱村（光風園）、富岡（ふあっと）、富岡（Reve）、 タ永（CS いずも）、布野（ハートピア出雲）、 地域移行支援 WG：佐藤、和田（こころの医療センター） 矢野、信高（海星病院） 矢野（出雲保健所）、三島（ハートフルホームかんど）、 金友（WANAJAPAN）、若林（Relisa）、富岡（Reve）、多々 納、長馬（県中） 事務局：山本、青木（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	障がいのある方が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるように… ○地域生活支援拠点（ささえ愛サポート）のスムーズな利用 ●地域移行のみならず在宅生活を支える地域の仕組み作り
活動状況	○ささえ愛サポート 1. ささえ愛サポート稼働状況より課題を検討し地域生活支援拠点プロジェクトチームへ報告（R3～R5） 2. 利用者に対する事業の周知や相談支援専門員の制度理解の徹底 ・相談支援専門員へのアンケートの実施（R4.9、R5.4） ・サービス調整会議にて短期入所事業所との情報共有、課題整理（R3.9） ・サービス調整会議にて事例を通じた制度の紹介（R4.9、R5.4） ・個別相談会の実施（R5） ・相談支援専門員向けの手引き（リーフレット）の作成（R3～R5） ・利用者用のパンフレットの修正（R3～R5） 3. 拠点アパートの利用対象や条件などの検討 ・アパート利用要件について相談支援専門員に周知 ・アパート見学会の開催（R4.10、R5.6.7） ●地域移行支援 1. 精神障害者の長期入院患者の退院支援を広く行うため、困難となっている課題を検討（R3～R5） 2. 病院からの困難ケースを事例検討し地域移行につなげる（R3、R4） 3. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業とリンクして現状と課題を整理し今後の必要な取組を検討 ・サービス調整会議にて「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムにおける支援者の役割と地域相談支援」研修を行う ・「地域で支える医療の強化」、「家族支援」、「住まいの確保」についてテーマ別にゲストを呼び、多職種で幅広い視点から現状と課題を検討

成 果	○ささえ愛サポート ・R3 年度よりささえ愛サポートの稼働状況より課題を検討してきた。課題から相談支援専門員の制度理解への取組とアパートの活用を勧める取組を中心に行ってきた。 ・相談支援専門員へのアンケート結果から登録が必要と思われるケースについて検討する為、個別相談会を開催した。事例検討により制度の説明、理解を深めた。 ・サービス調整会議にて短期入所事業所の方に相談支援専門員からの質問に回答、情報共有、課題整理ができ理解が進んだ。 ・サービス調整会議にてささえ愛サポートを活用した支援の複数事例を通じ緊急時のイメージを共有、アパート利用も含め制度理解につながった。 ・相談支援専門員向けの手引きの作成、利用者用パンフレットの修正を行い理解しやすくなった。 ・アパートの活用を勧める為の取組としてアパート見学会を開催、地域移行からの活用を勧める為に病院、施設等にも案内、見学に来てもらう。 ・アパート利用の要件について検討し相談支援専門員に周知し利用が増えた。 ●地域移行支援 ・病院からの困難ケースを事例検討し病院と地域での役割や理解が深まり地域移行ができた。 ・ワーキングチームが多職種であり幅広い視点での支援方法や地域課題を検討する事ができ連携しやすくなった。 ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの6つの要素の現状と課題を整理する事ができた。
課題 次年度への方向性	○ささえ愛サポート ・利用者に対する事業の周知や相談支援専門員の制度理解に向け継続した取組 ・登録者のうち、施設入所や短期入所決定者の取り扱いの検討 ●地域移行支援 ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの6つの要素の現状と課題から今後の具体的な取組を検討 ・施設やグループホームからの地域移行、地域定着についての現状と課題、今後の取組内容について検討

令和3～5年度 こども専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：田中（プレーグ） 副部会長：川上（ハートピア出雲） メンバー：岡本、勝部（さざなみ学園）、福田由（プレーグ）山形（CS いずも） 事務局：三沢（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	1. 重症心身障がい児、医療的ケア児の家族の思いを聞き、抱える課題を整理し検討していくと共に相談支援専門員同士の連携や情報の均一化を図りスキルアップを行うことでより良い支援につなげる。 2. 障がい児支援の課題に必要な資源を検討し、取り組む。 3. 移動支援に頼らず、安心して通学できる手段の拡充について検討する。 4. 「島根県医療的ケア児支援センター」の役割について把握し、相談支援専門員とセンターが連携しやすいように情報提供をしていく。医療的ケア児の支援を知ること、医療的ケア児の担当が出来る相談支援専門員を増やしていく。
活動状況	1－① R4年8月重症心身障がい児、医療的ケア児ご家族の思いを聞き取った。その中で相談支援専門員に対する思い（特に相談支援専門員の持つ情報に差があるので提供できる情報を一律にして欲しい）、就学に向けてのサポートをして欲しいポイント、入浴支援、移動支援、短期入所等サービスを充実させて欲しいこと、災害時の対応について等、思いを確認した。 1－② R5年9～10月保護者、相談支援専門員向けに「知りたい情報」についてアンケートを行った。その内容に基づき、R6年1月「ワールドカフェ」を開催。知りたい情報について情報提供と資料提供を行ない、相談支援専門員同士の連携強化を図った。障がい者（児）福祉のしおりと計画相談支援マニュアルに反映をしていく。 2－① R3年8月学齢期の支援に関する情報共有会（不登校や学習障がい）を開催。出雲市教育委員会とウィッシュ、相談支援専門員が不登校や学習支援に関するそれぞれの役割と現状について共有した。 R4年1月サービス調整会議でも勉強会を行い共有した。 2－② R4年11月勉強会を開催。本人中心の支援、本人の強みを生かし、楽しみのある生活となるようなアイデア出しを行った。 3－① R3年11月出雲養護学校にて教員と相談支援専門員で通学に関する移動支援の現状を共有。必要な人に必要な支援が届くように家庭との連携を取りながら調整していくことが必要であることを確認した。 3－② 重症心身障がい児、医療的ケア児のご家族からの聞き取りの中で就学奨励費の

	手続きの煩雑さや記入の難しさを感じられていることが分かった。安心して利用するためには相談支援専門員もサポートする必要があることを確認した。 4 R5 年 7 月サービス調整会議にて、「島根県医療的ケア児支援センター」コーディネーター矢田昭子氏を講師に招き、センターの役割の紹介、事例検討を通して、相談支援専門員の動き方と関係機関との連携について学んだ。
成 果	1－① ご家族から相談支援専門員に求められていることが多岐にわたっていることを確認した。相談支援専門員ごとに提供される情報に差があるとの意見もあり、相談支援専門員の持つ情報の差をなくし、情報を提供できるよう準備することの必要性を感じた。 1－② ワールドカフェを通して他の相談支援専門員がどのような動きをしているのか知ることが出来たり、日々の支援での思いを聞くことが出来、相談支援専門員同士の横のつながりを持つことが出来た。また情報提供により、知らない情報を得る事が出来、ねらいとしていた相談支援専門員の情報の均一化への一歩となった。 2－① 学齢期の支援が必要な子どもに対する支援・資源として、教育委員会とウィッシュそれぞれの役割を知ること、現在の状況を共有することが出来た。 2－② ケース検討を通して今後活用できるアイデアをあげることが出来た。また、フリートークを通してコロナ禍での相談支援専門員それぞれの対応、子どもや親との関わりなど様々な話しが出来た。アンケートの結果からも満足度の高さがうかがえた。 3－① 通学に関する移動支援の現状を共有することができた。学校（出雲養護学校）にも移動支援の制度について知ってもらうことができた。 3－② 相談支援専門員が書類の内容を把握し、必要に応じてサポートをすることの必要性を感じた。R6 年 1 月のワールドカフェの際には出雲養護学校の先生をお招きし、就学奨励費について説明を受けることで学ぶ機会が得られた。 4 医療的ケア児支援センターの役割を確認できた。また、事例を通して、医療的ケア児に対しても他機関との連携が大切であること、支援の考え方は基本同じであるという気づきにつながった。また、医療的ケア児を担当していない相談支援専門員の参加も多く、医療的ケア児のケースを知るよい機会となった。
課題 次年度への方向性	重症心身障がい児、医療的ケア児、外国籍児、行動障がい児等、よりきめ細やかな支援が必要な子どもの児童発達支援や放課後等デイサービス、短期入所等の受入れに向けて現状を知り、具体策の検討を行っていく。

令和3～5年度

ささえる専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：柳楽（ぽんぽん船） 副部会長：長澤（美野園）、高尾（ハートピア出雲）、青木（あそび・R3） 居住系 WG <R3> 長澤（美野）、三島（太陽の里） <R4> 浅津（出雲サホーム）、小村（光風園） <R5> 浅津（出雲サホーム）、松村（ふたば） グループホーム WG <R3> 杉原（光風園）、井田（ふたばホーム） <R4・5> 長澤（美野園）、富岡（ふあっとほおむ） 日中活動系 WG <R3> 阿食（麦の家）、足立（まるべりー出雲） <R4> 金友（WANAJAPAN）、石橋（ハートピア出雲） <R5> 金友（WANAJAPAN）、太陽の里（三島） 就労支援 WG <R3> 柳楽（フロンティア）、青木（あそび）、柳楽（ぽんぽん船） <R4> 柳楽（フロンティア）、青木（あそび）、柳楽（ぽんぽん船）、山本（あすてっふ） <R5> 山本（あすてっふ）、ミライカ（武田）、青木（あそび）柳楽（ぽんぽん船） 居宅介護 WG：<R3> 松井（介護ステーションさくら）、飯国（ケアサポートやわらぎ） <R4> 松井（介護ステーションさくら）、土田（ヘルプステーションあおぞら） <R5> 松井（介護ステーションさくら） 児童通所 WG：<R3> 高尾（ハートピア出雲）、矢田・久保田（CS いずも）、池田（ぽこぽこ） <R4> 池田（ぽこぽこ）、和田・梶谷（CS いずも） <R5> 池田（ぽこぽこ）、寄貞（すだち）、錦織（ソレイユ） 事務局：和田（福祉推進課・R3）・山本（R4・5）
テーマ(ねらい)	1. サービス管理責任者等で情報交換・情報共有・研修等を行い、横のつながりを深めることで質の向上をめざす。 2. 相談支援専門員や他の専門部会と連携し、課題解決につなげていく。 3. 事業種をこえて共通のテーマで意見交換し、縦のつながりを深めることで、障がいのある人を切れ目なく支援する。（R5 年度） 4. 関係機関と連携し、「ささえ愛サポート」を推進する。 5. 地域課題を解決する（R3 年度）
活動状況	1. サービス管理責任者等の質の向上をめざす (1) 部会の開催（各年4回）：研修会等の企画・準備、各WGの活動報告 (2) 各ワーキンググループの開催（各年1～5回程度） 居住系・グループホーム・日中活動系・就労支援・居宅介護・児童通所の6つのワーキンググループごとに活動を展開。 ・情報・意見交換

	・研修会・事業の企画等 コロナ対応の研修（バーチャル等）、グループホームや事業所の見学、ワールドカフェ、商品販売・展示会等 (3) 虐待防止・権利擁護研修 共通の研修サイトを作成し、各 WG・各事業所単位で実施。 2. 相談支援専門員や他の専門部会との連携 (1) 相談支援専門員との意見交換会（R3～4） ・サービス管理責任者と相談支援専門員との連携の現状と課題をまとめ、サービス調整会議において相談支援専門員との意見交換会を実施。 (2) 他の専門部会との連携 ・サービス調整会議のテーマに応じて、関係する WG が参加。 ・関連する専門部会への参加。 3. 事業種をこえて縦のつながりを深める（R5） ビヨンドプロジェクト ～一生モノのライフスキルを考えよう～ 児童の支援に携わる職員が成人期の資源を知ること、成人期を見通した支援が可能になるのではないかと考え、児童通所 WG・日中活動系 WG・就労支援 WG が連携し、児童通所の職員に対して、日中活動系・就労支援事業所の事業所説明会を実施。 4. ささえ愛サポートの推進 グループホーム・居住系ワーキングがサービス調整会議に出席し、短期入所についての説明・相談支援専門員との意見交換を行った。また、じりつ専門部会に参加して情報共有。関連するワーキングでは、情報交換・意見交換・グループホーム等の空き状況・稼働状況を確認し、現状と課題について話し合いを行う。 5. 地域課題を解決する（R3） サービス調整会議で地域課題としてあがった、「身体 GH・日中一時・短期入所施設の人員確保」について検討。県や市の既存の事業について情報共有と意見交換を行う。関係するワーキングに持ち帰り、受入れ事業所側からみた現状と課題についても確認した。
成 果	1. サービス管理責任者等の質の向上をめざす (1) 部会 サービス管理責任者等の抱える課題には、事業種ごとに特有のものがあるが、各 WG からの報告や意見交換を行う中で、障がいのある人を切れ目なく支援していくには、横のつながりだけではなく縦のつながりも大切

であり、ワーキングでの活動だけでなく事業種をこえて学ぶことの必要性に気づくことができた。

(2) ワーキンググループ

ワーキングでの活動を通して、サービス管理責任者等としての役割や各事業特有の課題について情報共有・意見交換し、課題解決につなげることができた。R5 年度は、ワールドカフェ・グループホームや事業所見学・販売展示会等、コロナ禍以前に各ワーキングで実施していた事業を再開し、他事業所の取り組みを知ることで知見を広げることができた。

(3) 虐待防止・権利擁護研修

コロナ禍で、部会全体での研修からワーキング単位での研修に切り替えたが、共通のスライド資料で基本的な学習をするとともに、ワーキングで各事業特有の課題・ケースについて深く意見交換することができ、ワーキング単位での研修の方がよいとの声が多く聞かれた。また、共通のスライド資料を事業所に持ち帰り、現場職員の研修にも活用することで、実践に活かすことができた。

2. 相談支援専門員や他の専門部会との連携

相談支援専門員とサービス管理責任者等が、事前にまとめた「現状と課題」をもとに意見交換することで、お互いの状況を理解するとともに、連携を深めるための今後の工夫・改善等について確認することができた。また、児童・入所・就労支援等、関連する専門部会やサービス調整会議に参加して、相談支援専門員や関係機関と連携を深めることができた。

3. 事業種をこえて縦のつながりを深める

「ビヨンドプロジェクト ～一生モノのライフスキルを考えよう～」(R5年度) 新たな取り組みに向けて、児童通所 WG では「成人期に向けての取り組み」について確認し、日中活動系・就労支援 WG では「児童期に身につけておいてほしい力」について意見を出し合い、3つのWGで情報交換を行った。児童通所では成人期を見据えた支援に取り組んでいるが、実際、成人期の事業所で役に立っているかどうか不安があり、成人期の事業所では児童通所の取り組みを知らないという状況があった。

まずは知ることから始めようと、児童通所の職員に、日中活動系・就労支援事業所を知ってもらうための事業所説明会を実施した。事業種をこえた事前の話し合いや、現場職員の方にも事業所説明会に参加していただいたことで、利用者支援の視野を広げることができた。

	4. ささえ愛サポートの推進 関係のWGで情報交換・意見交換し、ニーズに応えることができるよう課題をまとめた。事業所や制度の理解不足・事業所の選択や手続き等の課題・相談支援専門員が登録票を提出してから事業所に届くまでに日数がかかる・登録票の提出から実際の利用までに期間が空くと状況が変わるため定期的（年1回）に情報整理して提供する流れが必要・相談支援専門員と連絡が取りにくいメールで共有できるとよい・体験利用時の補償（利用者の過失による物品の破損・他者にケガを負わせた場合の補償等）について検討が必要等の意見が出ている。 個別相談会では、相談支援専門員・市役所・各事業所で事例検討を行い、いろいろな立場の方の意見を聞くことができ、よい学びの場となった。 5. 地域課題を解決する（R3年度） 短期入所の受け入れは、コロナ対応のため各事業所ともに限定的となっている。また、受け入れるには、職員の勤務体制を調整する必要があり、通常の利用者対応への影響が出てくるが、余分に職員を配置するには報酬単価が低すぎる等、制度的な課題があるのが現状である。サービス管理責任者同士のつながりから複数事業所で分担して受け入れたケースや、相談支援専門員とのコミュニケーションがとれていると受け入れやすい等、日頃の連携を深めていくことで解決できる部分もある。 サービス調整会議でささえる専門部会が解決すべき地域課題としてあがった、「身体GH・日中一時・短期入所施設の人員確保」について、解決してはいないが、情報収集や現場の声を聴き意見交換を行う等、ささえる専門部会としてできることには取り組んだ。サービス管理責任者等にできることには限りがあり、人員確保については、事業所を運営・経営する立場にある理事長・施設長で検討していく課題ではないかという結論に至る。
課題 次年度への方向性	専門部会として数年活動してきたが、地域課題を解決していく組織というより、サービス管理責任者等のつながりの場としての役割の方が大きく、次年度より「サビ管・児発管等ネットワーク会議」として活動していく。 ○サービス管理責任者等の横のつながり 新規事業所の増加や世代交代等で、新たなメンバーも増えている。サービス管理責任者等の質の向上をめざすため、継続して事業種ごとのワーキングでの情報交換や虐待防止・権利擁護研修等に取り組んでいく。 ○サービス管理責任者等の縦のつながり 障がいのある人を切れ目なく支援していくには、横のつながりだけではなく縦のつながりも大切であり、事業種が違っても共通して話ができる内容がある。事業種ごとのワーキングでの活動の他、令和5年度に引き続き、部会メンバー

	で班編成・企画し、幅広く共通のテーマで意見交換できる「ビヨンドプロジェクト ～一生モノのライフスキルを考えよう～」に取り組んでいく。 ○「ささえ愛サポート」の推進 「ささえ愛サポート」については、新たなケースが少なく、課題も多い状況。地域のニーズに応えていくことができるよう、行政や関連する専門部会と稼働状況や課題を共有し、改善していく必要がある。今後も継続して、関連するワーキングで情報交換するとともに、関係機関と連携して進めていく。
--	---

令和3～5年度

そうだん専門部会 報告書

部会メンバー	部会長：足立須（ふあっと）、副部会長：萬代（ハートピア出雲） メンバー：渡部（ふあっと）、景山（ハートピア出雲） 板倉（さざなみ学園）、勝部葉・柏井（そうゆう） 福田啓（プレーグ）、山形（CSいずも）、小村（美野園） 事務局：高山、三沢（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	1. 相談支援専門員のスキルアップや連携の強化に取り組み、障がい者のエンパワメントや生活の質の向上を図ります。 2. 災害など緊急時にも対応した相談支援が実施できるように、災害アセスメント等の活用など検討し、より一層安全な暮らしの実現を目指します。
活動状況	1. 書類作成マニュアルの改訂 2. 出雲らしい相談支援体制の構築に向けての検討 1. 当事者が必要だと思っているときにスムーズにマッチングできる仕組み。 2. 相談支援専門員が困ったときに相談できる体制づくり。 1) 人材育成 研修会の開催 ・ストレングスモデルを活用したグループスーパービジョン ・ワールドカフェの開催（初任者・主任相談支援専門員を対象とした） 2) 出雲らしい相談支援体制をするにあたり、雲南市の視察を実施。それを踏まえ必要な柱についての検討 ・スムーズに相談支援につながるための仕組み ・主任相談支援専門員の活用 ・相談支援専門員の横のつながりを強化するために （特に一人職場や初任者に対してのフォローを検討） *ワールドカフェの目的は、相談支援専門員の連携強化を図るとともに、相談支援の現状と今後の相談支援体制に関する要望も把握する機会とした。出雲らしい相談支援体制を構築するために何が必要かについてワールドカフェで浮かび上がった課題などを中心に話し合いを行った。 3. 災害アセスメントの作成 令和4年7月から、順次災害アセスメントの作成を行っている。 令和5年6月に開催されたサービス調整会議において、災害アセスメント票の振り返りを行った。 その意見を受け、災害アセスメント票の改訂を行った。
成果	○書類作成マニュアル作成。現実に即した手順を明記することにより、相談支援専門員（特に初任者）がサービス等利用計画やモニタリングを作成しやすくなった。

	○災害アセスメント作成後、振り返りの機会を設け、改定作業を行った。 アセスメントを行う事で、障がい当事者やその家族とも災害時の避難について話し合う機会とすることも確認した。 ○出雲市内で活動する主任相談支援専門員の顔合わせを行い、主任相談支援専門員としての役割の共有と、今後の連携強化について確認を行うことができた。 ○目指すべき「出雲らしい相談支援体制」の構築に向けて、今後のあるべき姿や、取り組むべき課題について検討することができた。
課題 次年度への方向性	○主任相談支援専門員の活用、仕組みづくり ○当事者や家族、地域住民等にとってアクセスしやすい相談支援体制 (相談支援の現状把握や相談支援専門員のサポート体制) ○重層的な相談支援体制の仕組みや基幹相談支援センター等設置の在り方やについて検討。…質の高い相談支援を実現するための人材育成や活動の評価

令和3～5年度 就労支援ネットワーク会議 報告書

メンバー ※R5年度	リーダー：青木（あそび） 副リーダー：足立（まるべりー出雲） 書記：竹縄（ダイケアピノキオ） 佐藤（アトリエール） メンバー：佐藤（あそび） 柳楽（ワークセンターフロンティア） 柳楽（ぽんぽん船） 古角（やまびこ園） 小豆澤（豆の樹） 井上（ハローワーク出雲） 安田（リーフ） 福田（リーフ） 山根（出雲養護学校） 平木（出雲養護学校） 萬代（ハートピア出雲） 鍵山（こころの医療センター） 大畑（出雲保健所） 山本（あすてっふ） 原（島根県東部高等技術校） 細木（しまね東部若者サポートステーション） 森山（島根県中小企業同友会／Office Sou） オブザーバー：原（島根県教育庁 特別支援教育課） 事務局：足立（福祉推進課） 大島（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	1. 障がい者の一般就労を支援する組織縦断的な事業の企画運営 2. 企業とのつながり作り 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 4. 就労定着支援に関する活動
活動状況	■ネットワーク会議の開催 各年度6回 ■事例検討 ネットワーク会議時に実施 ■ジョブガイダンス 一般就労を目指す障がい当事者を対象とした就労準備学習の機会を提供 R3～4年度 動画教材「自分に合った働き方について考える」制作 R5年度 合同ジョブガイダンス 10/5開催 39名参加 ■障がい者雇用に関する企業情報交換会（リーフと共同開催） R3年度：9/8開催 事例発表 菱南電装(株) 出雲工場 11社参加 R4年度：9/22開催 事例発表 スターバックスコーヒージャパン(株) 16社参加 R5年度：11/17開催 事例発表 島根島津(株) 12社参加 ■福祉から一般就労へステップアップ意見交換会 福祉就労事業所スタッフ対象に、一般就労支援のノウハウを情報提供 R3年度：市内の就労系福祉事業所にアンケート調査実施 R4年度：意見交換会 12/6開催 15事業所 18名参加 R5年度：意見交換会 12/6開催 14事業所 21名参加 ■はたらく仲間のコーヒータイム 一般就労で働く障がい者の気軽な集い 「ふじひろ珈琲」にて 毎月第3金曜日 18：00～19：00 ■#ツリーカフェ 障がい者雇用をめぐる情報交換の場 「スターバックスコーヒーゆめタウン出雲店」にて

	偶数月第2木曜 18:00~20:00頃 ■就労アセスメント打合せ会 養護学校卒業予定者の就労アセスメント実施について関係者打ち合わせ
成 果	1. 障がい者の一般就労を支援する組織縦断的な事業の企画運営 定期的にネットワーク会議を開催し、事業の、企画・実施に共に取り組んだ。一般就労を目指す当事者のための学習機会として合同ジョブガイダンスを開催。コロナ禍で集合研修が困難だった時期に制作した動画教材「自分にあった働き方について考える」を活用したビジネスマナー講習、ハローワーク担当者による講義のほか、企業経営者の協力によるリアルな模擬面接を実施。多くの参加者から経験して学べる、実践しやすいと好評を得ている。 2. 企業とのつながり作り リーフと共催で障がい者雇用に関する企業情報交換会を開催。企業から障がい者雇用の取り組みや支援機関との連携、活用した支援制度等について事例に基づいた発表をいただき参考になった。グループワークでは企業と就労支援関係者が互いの取り組み状況や悩み、想いなどを話し合い、相互理解を深める機会となった。 R4 年度の企業情報交換会をきっかけに、もっと気軽に継続的に情報交換できる場を作ろうと企業側から発案いただき、スターバックスジャパン(株)の協力を得て R4.12 より「#ツリーカフェ」を立ち上げ、隔月で継続開催している。 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 数ある就労継続支援事業所の中には一般就労への支援について考え方やノウハウにばらつきがあり、ステップアップの機会が等しく提供されない危惧がある。市内の就労系福祉事業所を対象にアンケート調査を実施し、一般就労支援の実情や課題の洗い出しを行った。結果をもとに、就労系福祉事業所スタッフを対象とした意見交換会を開催。R4 年度は福祉から一般就労へステップアップされた事例を取り上げ、事業所内での様子だけで一般就労への可能性を判断できないことについて考えた。寄せられた感想から、R5 年度は障がい者雇用支援制度の活用方法や関係機関との連携を焦点に事例紹介し、各種制度の特色やメリット、支援機関との連携のタイミングやかかわり方について情報提供とディスカッションを行った。 4. 就労定着支援に関する活動 一般就労している当事者への就労定着支援として「はたらく仲間のコーヒータ임」を開催している。コロナ禍の当初には定期開催が難しい時期があったが、R4 年度からは毎月のペースに戻して継続している。仲間のつながりの中で近況や悩みごとなどを話せるリフレッシュの場となっている。
課題 次年度への方向性	1. 障がい者の一般就労を支援する組織縦断的な事業の企画運営 就労支援をめぐる連携協働のネットワークの重要性は変わらない。福祉に限らず幅広い関係者が集い、共に考え、共に活動する協働のプラットフォームと

	して継続していく。 2. 企業とのつながり作り 障害者雇用率の段階的な引き上げや、新たな支援制度が検討されるなど、障がい者雇用は推進拡大の途上にある。関心やニーズがある一方で、依然として躊躇している企業、不安を抱いている企業は多く、任せる業務内容の創出をどうしたらいいのか、職場内での理解促進に苦慮するといった悩みが寄せられる。また、支援制度や支援機関について情報が十分に届いていない状況もある。企業と支援機関のつながりを深め、障がい者雇用について実践的な理解を広げていくため、企業情報交換会やツリーカフェの取り組みを継続する。 さらに踏み込んだ交流の機会づくりとして、企業の方に福祉就労事業所の様子を知ってもらう企画や、障がい者雇用を实践されている職場の見学会なども発案されている。幅広い関係者がかかわるネットワーク会議の強みを生かして取り組んでいきたい。 3. 一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 福祉から就労へステップアップ意見交換会の企画実施を通して、利用者を一般就労へ送り出していきたいと考えている福祉事業所が多くあること、その一方でノウハウがないために躊躇することも少なくないという課題が浮き彫りになった。制度や支援機関の活用方法のほかにも「障がい特性や合理的配慮について企業に理解してもらうにはどうしたら良いか」「職場実習中や就職後のフォローをどうするか」など、取り上げていきたいテーマがある。一般就労を希望する当事者がどこの事業所に属していても等しく挑戦する機会を得ることができるよう、さらに取り組みを進めていきたい。 また、当事者向けの学習機会として合同ジョブガイダンスの開催を継続していく。 4. 就労定着支援に関する活動 一般で働く障がい当事者のためのゆるやかな集いの場として「はたらく仲間のコーヒータ임」を月1回のペースで息長く継続していく。幅広く活用してもらえよう対象者に声かけをしていきたい。 5. その他 R7 年秋より「就労選択支援」の導入が予定されている。新制度について関係者間で情報共有を図るとともに、出雲地域の実情に沿った運用のあり方について話し合いを行っていきたい。
--	---